

■ミッドラインカテーテルの管理

輸液期間が7日を超えると見込まれるとき、ショートタイプの末梢静脈カテーテルではなく、ミッドラインカテーテルまたは末梢挿入型中心静脈カテーテル(PICC:peripherally inserted central catheter)を使用する。

■カテーテルの固定方法

1. 滅菌透明ドレッシング剤で刺入部が観察できるものを選択する。少なくとも7日ごとに交換する。
2. 滅菌透明ドレッシング剤が使用できずガーゼドレッシングを使用する場合は、2日ごとに交換する。
3. 刺入部を中心に密着させるように固定し、点滴ルートが可動しないように補強する。
4. 定期交換以外でもゆるみ、湿潤、汚れなどが見られた場合は交換する。
5. ミッドラインカテーテルのドレッシングを交換する際は清潔手袋(非滅菌)を着用して行う。

■カテーテル挿入時の注意点

■非ガイドワイヤー型ミッドラインカテーテル

1. 手指衛生を行う、必要な物品をすべてそろえて準備しておく。
2. 挿入時の皮膚消毒薬は消毒用エタノールまたはクロルヘキシジン添加アルコールを用いる
3. 皮膚消毒薬の塗布後に穿刺部位に触れない場合は、清潔な非滅菌手袋を用いても良い。ただし超音波エコーを使用する際は、プローブカバーと滅菌手袋を用いることが望ましい。

■ガイドワイヤー型ミッドラインカテーテル

1. 手指衛生を行う、必要な物品をすべてそろえて準備しておく。
2. ガイドワイヤー型ミッドラインカテーテル挿入時およびドレッシング交換時の皮膚消毒薬はクロルヘキシジン添加アルコールを用いる。クロルヘキシジン禁忌の患者にはポビドンヨードや70%アルコールを使用する。
3. ガイドワイヤー型ミッドラインカテーテルを挿入する際は、手技者はマキシマルバリプリコーション(手指衛生、マスク、滅菌ガウン、帽子、滅菌手袋、全身を覆う滅菌ドレープ)を行う。
4. ガイドワイヤー型ミッドラインカテーテルを挿入する際は、原則として手技者単独での挿入は避け、介助者をつけることが望ましい。

■カテーテルの管理方法

1. カテーテルおよび穿刺部位を直接水につけない。透明ドレッシングで被覆すれば、シャワー浴を行ってもよい。
2. 血液、血液製剤、脂肪乳剤の投与時を除いて、輸液ラインの定期交換は最長7日間間隔で実施することが望ましい。
3. 血液および血液製剤の投与に用いる輸液ラインは、投与開始から24時間を超えては使用してはならない。フィルター付きの輸血専用ラインとし、投与ごとまたは4~6時間ごとに交換することが望ましい。
4. 脂肪乳剤の投与に用いる輸液バッグおよび輸液ラインは、投与開始から24時間以内に交換する。間欠的に投与する場合は、輸液バッグを新しく交換する際に輸液ラインも交換する。※一部の脂肪乳剤(プロポフォルなど)は12時間を超えては使用してはならない。
5. カテーテルを交換する際は、新しい輸液ライン一式を用いる。輸液バッグも交換することが望ましい。延長チューブ、フィルター、三方活栓の交換は、輸液セットの交換と同時に行う。
6. 最長14日間で刺し替えを行う。